

経管栄養で血糖コントロールが維持できた一症例
～頸髄損傷にて救急搬送された患者の経験から～

三重大学病院 NST

森貴宣 服部雅子 三澤雅子 宮村みさ子 手島信子 小寺恵美子 荒木美也子
世古口典子 岩下義明 矢野裕

背景：糖尿病での経管栄養投与の際、血糖管理に難渋する場合がある。今回急性期で血糖管理を行った糖尿病症例を報告する。

症例：76歳男性

既往：2型糖尿病

経過：飲酒中に意識消失して転倒し、頸髄損傷による四肢麻痺にて救急入院となる。フィラデルフィアカラーを装着し、ネーザルハイフローにて呼吸管理を行いICUへ入室となる。栄養は経静脈栄養にて開始となる。第2病日、経鼻栄養（メイバランス 1.0）20ml/h 持続投与開始。第8病日、インスリンスケールにて血糖管理しながら、間欠で1500ml/日まで漸次投与増量した。第21病日、インスリン固定（ノボラピッド5単位）＋スケールとなるが300 mg/dl 台の高血糖持続のため、糖質調整濃厚流動食品（インスロー）に変更した。間欠にて200ml×3回投与開始し、1200 ml/日まで増量し輸液を漸減した。血糖値は83～205mg/dl の範囲にて安定し、インスリン調整しながら良好な血糖コントロールとなった。経過中呼吸状態の悪化もあったが、状態安定し栄養状態は維持できた。第50病日目リハビリ転院となった。

結果と考察：急性期で血糖管理が必要な症例にて、インスリン調整とともに経管栄養剤の適切な選択と投与量が重要であることを再認識した。よりよい栄養サポートに結びつけたい。